

# TID修了生インタビュー

Vol.9 小野寺 峻一さん（岩手県タレント発掘・育成事業1期修了生）



小野寺峻一さん

独立行政法人日本スポーツ振興センター

## スポーツ歴

水泳(幼少期～中1)  
バスケットボール(小5～中3クラブ・部活動)  
スピードスケート(高1～現在)

## 競技成績 (スピードスケート)

国民体育大会 成年男子 2000mリレー  
6位(2016)、7位(2017)、8位(2020)  
男子500m、1000m、2000mリレー(2024)、500m、  
2000mリレー(2025)出場  
全日本マスターズスピードスケート競技会  
(2022)1000m3位(Aクラス)、1500m1位(Aクラス)  
500m2位(Aクラス)、1000m1位(Aクラス)

## TID修了後 の進路

岩手県立盛岡第三高等学校卒業  
岩手大学(教育学部スポーツ教育コース)卒業  
筑波大学大学院(人間総合科学研究科群コーチング学  
学位プログラム)在学中

## 現在の所属

独立行政法人日本スポーツ振興センター (JSC)  
ハイパフォーマンススポーツセンター (HPSC)  
ハイパフォーマンス戦略部 開発課  
国立スポーツ科学センター スポーツ科学研究部門  
併任研究員

## Q.JSCに入職しようと思ったきっかけを教えてください！

中学3年生の時にHPSCに研修に来て、「ここで働きたい！」と思ったのが最初のきっかけです。大きな施設に、最先端の設備、支援、スタッフの高度な専門性に、情熱。そこに感銘を受け、自然とタレント発掘・育成に関する勉学や研究、仕事に向かっていました。自分の経験を活かしたいというよりは、JSCで仕事をして、さらに様々な視点を心得、経験値を上げたいと思っています。

## Q.JSCでどんなお仕事をしていますか？

TID事業等をサポートする部署とスポーツ医・科学を研究する部門を研究員として併任しています。発掘・育成・強化の事業が、地域や競技の現状に合う形で進められるように、それらを研究(エビデンス)で繋いでいます。そこには、オリンピック選手やタレント生のスポーツ遍歴を追ったり、コーチや家族、育成プログラムの在り方を模索したり、幅広くデータを収集し、分析しています。

## Q.なぜその研究を始めましたか？

Vol.3の記事でも書いたのですが、多くのタレント生と関わり合う中で、一人ひとりの特徴、強み、目標へのアプローチの仕方、プログラムに対する反応が違うことを実感しました。世界一になる道に、正しい答えはないと思うのですが、誤ったアプローチはあると思います。TID事業では、タレント生の可能性を最大限に高めるためのプログラムが多く用意されています。今、目の前にいるタレント生に対して、様々な経験をしてもらい、あらゆる選択肢の中から、自分に合った道を作ってもらえるように、その拠り所となる情報を蓄積していきたいと思っています。

## Q. ご自身がタレントだった頃と今の立場から見る景色はどう違いますか？

頂点を目指すためには「**自らチャンスを掴みに行く**」姿勢が必要だった。

世界の舞台に対する憧れや想いは全く変わりません。華やかでキラキラしていて…、オリンピックを観ると胸が熱くなります。ひとつ変わったところがあるとすれば「チャンス」への向き合い方です。TIDプログラムでは、日本代表や代表コーチが指導してくれ、最高のプログラムを受け、選抜されるセレクション（測定会、体験会）などがありました。私は、一生懸命ではありましたが、失敗をしないように、プログラムを淡々とこなしていました。今思えば、世界への「チャンス」にすら気づいていなかったです。どういうことかということ、TIDを受ける機会は、多くの人と同じく与えられ、絶対合格するぞという気持ちでチャンスを掴みタレント生になりました。

その後、タレント生から世界へ踏み出す機会も、多くのタレント生と同じく与えられていたはずですが、与えられていただけで掴みにいけていなかったです。

世界は厳しいです。激しいです。皆さん死に物狂いです。同じ土俵の中で、一握りの「チャンス」を自ら掴みにいき、頂点を目指す。自分の強みを出す、アピールする。そうすると誰かが気づき、強みを伸ばしてくれ、次へつながる。ここぞという時に、そういったチャンスをものにできる勢いのある姿勢も大事なのだと、今になって感じます。JSCでは、世界一の研究機関を目指して多くの研究員や職員の方が、職務に当たっています。自分の不甲斐なさを感じる時が多々あります。

その中で目の前の仕事を着実にこなしつつも、自分の役割は何なのか、強みを発揮できる時は、いつでもいけるように準備しています。ただどうしても性格上、一発というよりは、全体の力をあげていくことに重きを置いてしまうのですが…。

皆さんが世界へのチャンスを掴んだ姿を想像して、私も頑張っていきたいと思います。

## Q. 最後に、将来に悩むタレント生にアドバイスをお願いします！

「**自分**」を大切にすることで見えてくるものがある。

「自分」を大切にしてください。すべての出発点であり、向かう先だと思えます。私は自分の信念を持ち続けました。「世界に挑戦したい」と思ったタレント生時代、そのために、スポーツ科学を学び、コーチングを学び、スポーツ現場で実践してきました。世界を目指しているタレント生の皆さんなら当然のことと思うでしょう。それをやり続け、私は今、アスリートとしても活動し、「世界に挑戦する」アスリートを支援する指導者、研究者、技術者となり、仕事にもなっています。やりたいこと＝仕事として見るのではなく、純粋に自分の好きなことを考え、行動していれば、それに「関わる人」の多さに気づきます。そこには、自分の好奇心への貪欲さと周りへの感謝が必要だと思えます。そうすることによって、アスリートとしても競技力が高まり、いつしか自分が「関わる人」としてキャリアを築くことも可能になると思えます。

～ タレント生当時の自分に伝えたいこと ～

誰のために、何をするのか。

「自分」を信じて、ハッピーに！

